**和解をもたらす人づくり**

**平和と和解のためのファシリテーター養成セミナー**

**第3期「シラバス」（予定）**

１．セミナーの目的・趣旨

　このセミナーでは、不安や偏見、利己主義、対立、分断などを起因とする身近な問題から国際的な対立に対し、排除や暴力（言葉や精神的暴力も含む）による解決ではなく、自分や他者の心に寄り添いながら、傾聴や対話による解決、対立変容をはかるスキルを学ぶことを主眼とする。さらに、共に生きる社会のあり方を考え、いのちの尊厳や霊性に重きを置く和解への導き方を学ぶことを目的とする。

２．到達目標

・自分や他者に寄り添うことについて学び理解する

・対立の特性と概念について学び、対立から和解に至るプロセスと必要な要素について理解し、和解へ導くスキルを学ぶ

・実社会での暴力やSNS上の言葉の暴力も含め、暴力に対して暴力による解決ではなく、非暴力にもとづく対立転換方法を理解することができる

・異なる意見や見方を受容し、傾聴と対話のスキルを身に付けることができる

・メディエーター（仲介者）としての基礎を学ぶことができる

・ワークショップを立案し、ファシリテーターとして実践ができる

・国内外の諸問題について学び、自ら考え、行動できる

・国際的視野を持ち、時代の流れと平和と和解のための現代における要請を理解することができる

３．対象者（参加者）

「和解」「平和構築」「ファシリテーション」に関心があり、実践したいと考えている宗教者、青年、大学生（院生）、NGO関係者、市民活動関係者などどなたでも。

４．キーワード

　平和、諸宗教、尊厳、多様性、自己理解、和解、共生、傾聴（アクティブ・リスニング）、対話、修復的正義[[1]](#footnote-1)、つながり、関係性、メディエーション（仲介）、分断、暴力、対立転換

５．開催形式及び手法

　対面またはオンラインでの講義と演習、受講生による討論を組み合わせた双方向授業（アクティブ・ラーニング）。さまざまな分野で活躍されている講師をお招きし、実践的なトレーニングや学習を行うとともに、ロールプレイングや実演、フィールドワークを通した体験学習を行い、各回の前後で課題に取り組み、学びを深める。

６．講師

和解・平和学の講座を持つ大学機関や、和解や平和問題に取り組む国内外の宗教者、宗教団体、学者、NGO等と連携し、ゲスト講師を迎える。

７．セミナー期間

　　2024年６月～2026年４月　全６回（+オプショナル）

８．修了課題

　セミナー終了時には、「MYアクションプラン」としてワークショップの

　企画、立案を行う。

９．修了証授与

　全セミナーの３分の２以上出席した人に、修了証が授与される。

10．プログラム　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（敬称略）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **回** | **月日** | **内　容** |
| 2024年 | | |
| １ | ６月29日  ～30日  場所：  東京・横浜 | **「心をむける」**  **自分に向き合い、共生社会の中で共に生きる他者に心をむける**  【内容】  ・平和の概念及びインナーピース（内なる平和）、人の尊厳について理解する  ・コロナ後の様々な心境（不安、孤立感、閉塞感）に心をむける  ・自分の内面をみつめ、自分との和解を試みる  ・多様性や多文化共生について理解する  ・自分や他者の心に寄り添うとはどういうことかを考える  【フィールドワーク】  ・1-２か所の宗教施設の見学  【講師】  ・曹洞宗大本山總持寺の僧侶の方（参禅）  ・ジェフリー・メンセンディーク（Jeffrey Mensendiek）（桜美林大学准教授:人間の尊厳教育）  ・山本俊正（元関西学院大学教授）  ・松井ケティ（清泉女子大学教授） |
| ２ | 10月26日  ～27日  場所：東京 | **「見方をかえる」**  **多角的に物事を見て、関係性の中で問題を捉える**  【内容】  ・対立の概念と特性及び和解に必要な要素について学ぶ  ・修復的正義の概念について知る  ・修復的正義の具体的な実践を学び、身近な場所で自分がどのように活かすことができるかを考える  ・和解のプロセスを理解する  【講師】  ・片野淳彦（東北アジア地域平和構築インスティテュート（NARPI）運営委員長）  ・松井ケティ（清泉女子大学教授）  ・原田雅樹（関西学院大学教授・神父） |
| 2025年 | | |
| ３ | ４月  場所：関西 | **「他者に気づき、受け止める」**  **和解のスキルを身に付け、自他の他者性に気づき受け止める**  【内容】  ・和解や調停のスキルを身に付ける  ・自分の内外の他者性に気づく  ・共に生きている構成員に気づき・受け止める  ・アクティブ・リスニングについて学ぶ  ・メディエーション（仲介）の概念とメディエーター（仲介者）としての基礎を学ぶ  【講師】（予定）  ・村上泰教（石鎚山真言宗教学部長）  ・国内でメディエーター（仲介者）として活動している講師  ・共に生きる社会で隣に気づくためにLGBTQの理解を深めて頂く講師 |
| ４ | 8月頃  場所：東京 | **「流れをつくる」**  **プログラムを策定し実施するための手段・方策を学び、実践する**  【内容】  ・分断を和解へ導くワークショップの立案をグループで行う  ・ワークショップのファシリテーションを実践する  【講師】　・松井ケティ先生 |
| ５ | 12月頃  場所：水俣 | **「つながる／つなげる」**  **コミュニティの対立について学び、つながりをもたらす役割を担う**  【内容】  ・犠牲のシステムとコミュニティの和解を考える  ・赦しと和解について学ぶ  ・和解のプロセスとコミュニティの再構築  【フィールドワーク】　水俣  【講師】（予定）  ・石原明子（熊本大学准教授） |
| 2026年 | | |
| ６ | ４月頃  場所：東京 | **「私がうごく、和解がうまれる」**  MYアクションプランの作成と実践、修了証授与  【内容】  ・対立・分断を和解へ導く**MYアクションプラン**を完成する  ・MYアクションプランを実践し、今後のファシリテーションに活かす  ・修了式 |
| **【オプショナル】** | | |
|  | 2026年 | **「外へふみだす」**  **目的：****市民の力と和解の取り組みを現場で学び、諸宗教で取り組む意義と役割を考える**  【フィールドワーク】  ・海外への渡航を検討 |

1. 修復的正義はRestorative Justiceの日本語訳で、修復的司法とも呼ばれる。修復的正義は、西洋に由来する司法制度と司法正義が、被害者、加害者、コミュニティの人々のニーズに十分に応えていない、もしくは司法プロセスが和解や平和ではなく社会的損傷や対立を深める場合があるという課題を超えようとする試みのことを指し、「不正義に対しての、非暴力的な平和手段による解決への取り組み」ともいわれる（ハワード・ゼア,2008） [↑](#footnote-ref-1)